



北海道大学

社会資本計画学研究室
研究・学生の指導について

2020年4月

岸 邦宏

研究分野の対象



学問分野 **学際的**

- 交通計画・都市計画
- 関連して: 経済学、情報工学、社会学、心理学、地理学、歴史学、etc.

研究対象

- 自動車、鉄道、地下鉄、バス、航空機、自転車、徒歩、道路、交通施設、都市、まちづくりetc.
- 分析手法、システム、交通行動、戦略、政策
- 冬期、環境、安全、観光、新幹線・・・

研究テーマ

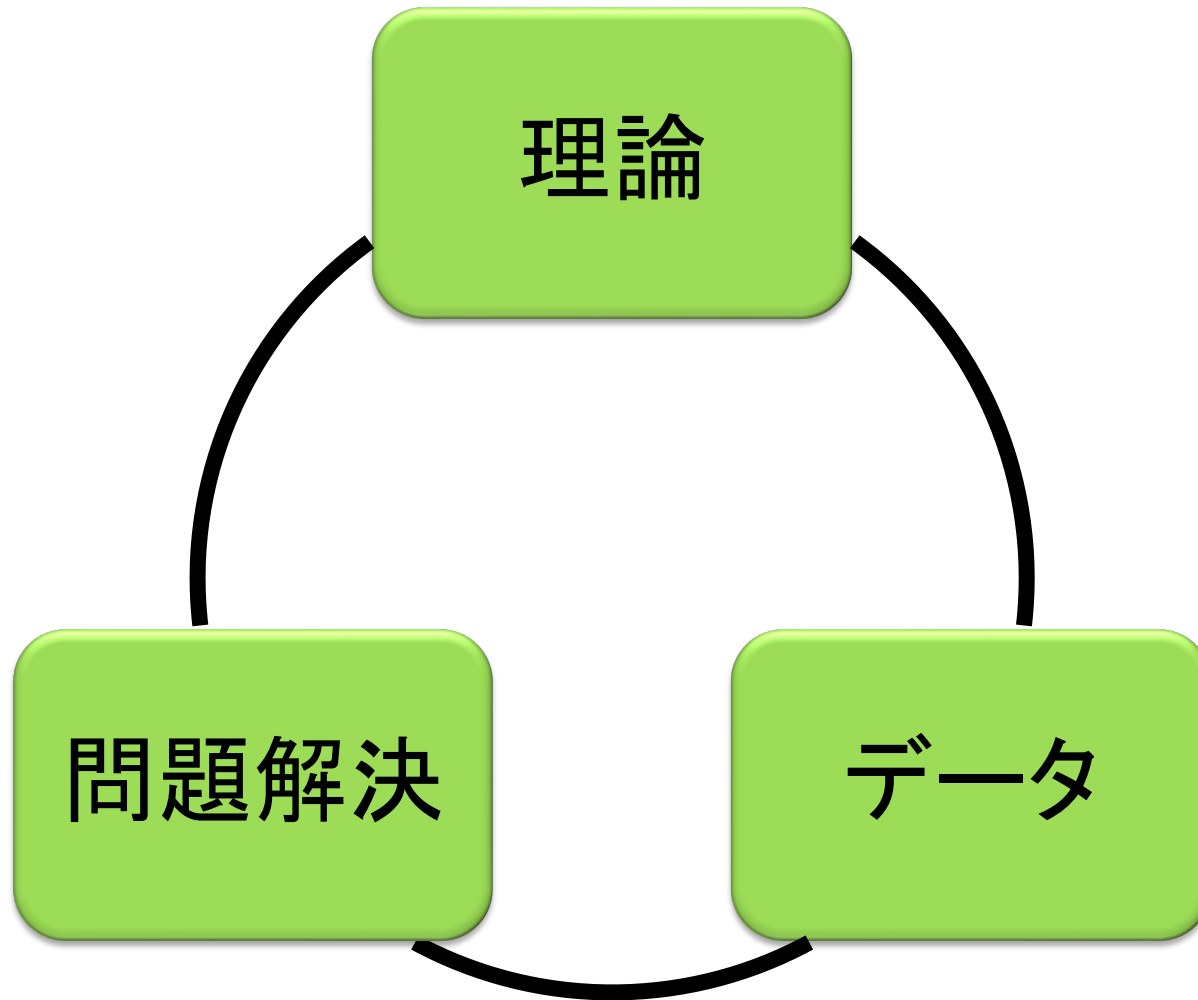


- 都市交通・地域交通(JR路線存廃問題、コミュニティ交通など)
- 都市間交通(新幹線・JR問題・航空・高速道路など)
- 人口減少社会の持続可能な都市・交通のあり方
- 交通とまちづくり(都市構造・都心再生・地域活性化)
- 持続可能な物流システムの構築(トラックドライバーの減少など)
- エネルギー消費・環境負荷低減をみすえた都市・交通のあり方
- 都市・交通に関する合意形成・制度設計
- 廃棄物輸送ネットワーク
- 建設マネジメント

学術的価値＋社会的価値



研究のアプローチ



論文の進め方



興味ある・研究したいテーマを自分で考え、企画立案する(研究調書の作成)

先生とテーマについて議論

- 学生の希望とのマッチング(5月～6月)

夏休み前に論文ゼミ (テーマの決定)

後期は原則毎週 論文ゼミ(火曜日の午後)

- 各自2週間に1回発表する(2グループ)
- 全員参加でお互いに議論をしながら論文を作り上げていく

先生、学生で随時議論・調査・実験



この研究室で学生が得られるもの

卒業後に各方面で活躍できる人材育成

- 論理的思考能力を身につける(自分で考える)
- 自分の考えをわかりやすく相手に伝える(プレゼン)
- 議論で負けない(質疑応答)
- 限られた時間内で困難を打破する力を身につける
- 共同作業による協調性・思いやり

国際交流の一環で海外に行くチャンスがある

- 日タイ学生セミナー or インターン(ここ数年、毎年実施)
- AIT, チュラロンコン大学とのダブルデGREEプログラム

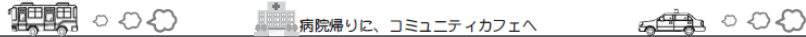
幅広い分野の第一線で活躍するOBとの強力なネットワーク

実際の交通計画の場に参加できる(現場も重視)

調査に参加すれば、いろいろな場所に行ける



岩見沢市とのタイアップでの研究



自分の住んでいるまちのことを学ぶことは大切だし、学生と一緒にというのが楽しみです。友達を誘って参加しますね。ぜひ、お誘い合わせのうえ、気軽にお越しください。

二つ目はどんな交流プロジェクトですか？
一つは、北海道大学の協力を得て、コミュニティカフェをつくろうと思っています。
コミュニティカフェって何ですか？
地域社会の中で、たまり場「居場所」になっているところの総称です。市民の皆さんの出会いと交流の場、情報発信の拠点、環境や福祉などの問題解決の場として注目されています。協力していただけの北海道大学の皆さんに話を聞きました。

コミュニティカフェ

北海道大学の学生が常駐して、さまざまな世代の人がたくさん集まり、ゆっくりと楽しみながらバスを待ったり、時間を過ごしたりできる、交流拠点・たまり場をつくりたいです。学生や他の人とおしゃべりをしたり、ゲームをしたり、親子連れやお年寄りなど、どなたでも休憩することができます。

地域の憩いの場で、大学生と楽しくおしゃべりしてみませんか。

期間 12月8日(火)～20日(日)

午前11時～午後4時30分

場所 であえる岩見沢2階「ひなた広場」(4西3)



コミュニティカフェという場所は、あまり馴染みがないと思いますが、気軽に来ていただきたいです



宮川 香奈 さん

買い物や学校の帰り、寒くなる時期ですから、温かい飲み物飲んで、みんなで楽しいひと時を過ごせたらと思います



尾崎 光枝 さん

きっかけは？
最近、車で買い物に行き、電車やバスに乗らなくなり、買い物もインターネットで済ませるなど、地域のつながりが薄くなってきていると思うんです。そういう生活を続けていると、周りの人と話せる機会が減ります。普通に人と話せる生活が、いきいきとした老後につながると思い、注目したのがコミュニティカフェです。

期待すること
10分だけでも、一日中過ごしていただいても構いません。楽しんでいてくれた人が、数日後に数人の友達と来てくれる。そういう口コミが一番大事なんです。買い物ついでに来ていたのが、コミュニティカフェを目的にと変わってくれると嬉しいです。

北海道大学大学院 岸 邦宏 准教授、大学院工学院と工学部の学生の皆さん
わたしたちと楽しく過ごしましょう！お待ちしております！



どんなことをするの？
であえる岩見沢は、小さい子どもたちが集まる場所があるということもあり、高齢者の方との交流がもって増えればと思います。ただおしゃべりするだけではなく、昔の遊びや折り紙、けん玉、ぬり絵、パルンアートなど、高齢者の方ももちろん、小さな子どもでも楽しめることを考えています。小学生に勉強を教えたりもしますよ。

将来的には
わたしたちは札幌の大学なので、岩見沢に行くと継続していくのは難しいと思いますが、地元の人が引き継いでくれたら嬉しいですね。



関部 麻友子 さん

わたしたちもいろいろ教わることがありますし、わたしたちもいろいろ教えます。そういう場になればと思っています



齋藤 昌孝 さん

ちょっとしたそくだけでもいいので、いろいろの方に来てほしいです。わたしたちも気軽にやるので、気軽に来てください



関部 麻友子 さん



森主直
市企画室主査で岩見沢市地域公共交通活性化協議会の事務局。北海道開発局から岩見沢市役所に出向して現在2年目。職場環境が変わりながらも、引き続き奮闘中。

岩見 さわ子
専業主婦。夫、高校生の娘と中学生の息子の4人家族。気になることがあると聞かずにはいられない行動派主婦。公共交通が気になり始めた今日この頃。今回も森主直に質問します。

まちなかに出よう！ 市民の足で

以前、生活交通シヨンのことを勉強した岩見沢さん。岩見沢市地域公共交通活性化協議会の会務を停職したり、積極的にバスを利用したりと、公共交通に対する関心が変わってきたようです。今日は、あらかん公共交通の話を聞いてみました。

広報いわみざわ6月号でお知らせした岩見沢市生活交通シヨン。岩見沢地域公共交通活性化協議会が、市内の公共交通のあり方を検討し、策定したものです。

市は、この生活交通シヨンの実現に向け、まちづくりと連携した、将来にわたって運行していくことができる公共交通の路線や、運行計画などの検討を進めています。

今月号は、まちなか中心市街地の活性化と連携した、新たな公共交通の取り組みを紹介します。

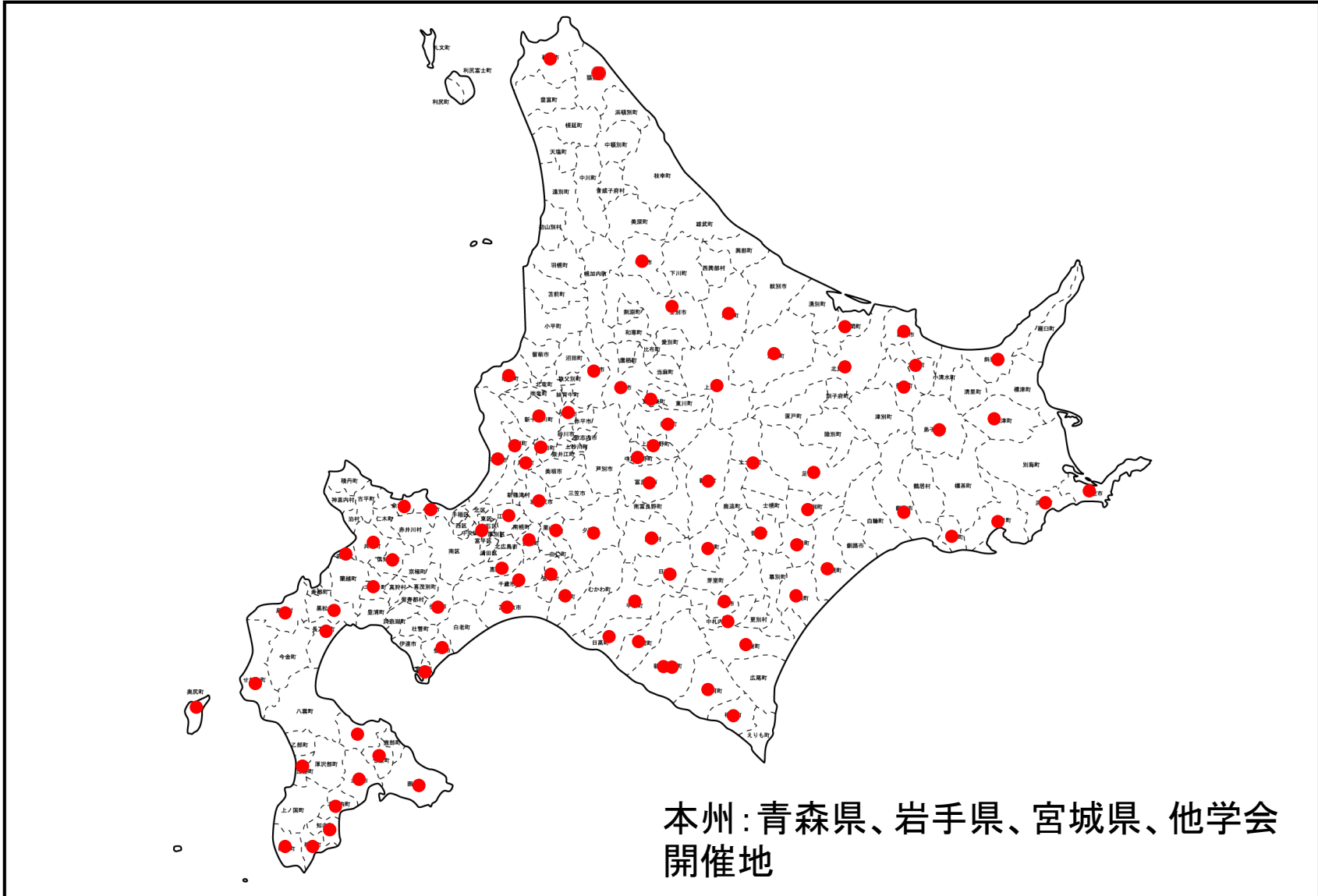
成する公共交通網の構築に
関する取り組みです。
少し思い出し、既存の
施設を活用したまちなか交流
拠点をにつくってあり、まちなか交流
拠点として、大学と連携した一つの
交流プロジェクトを計画しました



学生と一緒に調査等に行った市町村



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000（地図画像）を使用したものである。（承認番号 平19総使、第82号）



地域と交通研究会(2月) 対外的活動



研究成果の一般公開

こんな学生に来てほしい



- 交通や都市、まちづくりに興味がある人、好きな人
- 社会で実際に起こっている都市・交通問題を解決したい、交通を通して社会をより良くしていきたい人
- クリエイティブな人間になりたい人
- 発表が上手になりたい人
- たまには人のために汗をかける人(困ったときは助け合う)
- 海外で自分を高めたい人(大学間交流プログラム、ダブルデGREEプログラム)
- **都市・交通のプランナーを育てたい！**

